

事例発表 抄録テンプレート (A 4 2 枚程度)

所属

氏名

1. 研究テーマ

発表テーマの決定 (何を主張したいのかが分かるタイトル)

そのタイトルを読めば何を訴えたいのかが分かることが必要

単に「事例・実践」の紹介・報告ではない

介護の研究や実践世界ではどのようなことが問題になっているのかを把握しその問題の研究がどのように介護現場で貢献ができるのかという意図を持つことが重要

例) テーマ「入浴を拒否する事例について」

2. 研究目的と背景

背景: ケア実践で課題になっている状況など

目的:

研究で明らかにしたい内容や仮説 (何を解明したいのか、結果として何を得たいのか)

事例・実践研究の目的の場合

実態を明らかにするのか (○○の実態について)

原因・要因などを明らかにするのか (○○の要因分析について)

ケアの方法を明らかにするのか (○○のケアの在り方について)

自分は何を明らかにしたいのかを考え明確化する (訴えたいこと)

3. 研究方法

明らかにしたいことをどのような方法で行うのか。(調べる方法)

①調査研究

□質問紙調査→実態などを調べる

□インタビュー調査 (面接法)

1 対1 グループインタビュー

記録と処理 (メモ・録音・テープ起こし→文字化)

②観察法

目に見えるもの (現象)・目に見えないもの (本質) をとらえる

自然的観察法 (ありのままを観察する)

実験的観察法 (状況の変化を観察する)

③実験研究

予測される結果を作り出すことで仮説を検証する方法

条件と行動の因果関係を明らかにする (行動変化をみる)

実験群と非実験群

介入前と介入後

④実践研究

実践をより良いものにするための指針・方法を具体化する

問題→アセスメント→解決すべき課題→目標→実践（ケアの方法）→結果
結果からケアの有効性を見出す

⑤業務研究（分析）

タイムスタディ →業務改善 業務効率化

4. 倫理的配慮

調査実施に際しては、調査対象者への調査目的の説明を行い協力の同意を得る。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行う。

5. 結果

取得方法→得られた結果→データ加工・整理

特に実験研究・実践研究などは結果をどのように数値化するかが問われる（エビデンス）

□できるだけ数値化・データ化・図表化する

6. 考察

得られた結果から何が言えるのか

根拠（データ）と論拠（原因・効果・理論）に基づいて研究の目的と関連づけて明らかにする

7. 結論（今後の課題）

研究の成果としてわかったことをあらためて要約し、さらに、成果の持つ意味と今後の課題を示す

8. 参考文献